

令和 5 年 1 2 月議会一般質問答弁要旨

■公共交通機関の推進について

- (1)本市の公共交通の現況について
- (2)デマンド交通について
 - ア 現況の課題と市民からの意見・要望について
 - イ 今後の展開について
- (3)市外へのアクセスについて
- (4)多様な公共交通の調査研究について

○本市の公共交通の現況として、路線バス、高速バス、タクシー、デマンド交通等が運行しているが、全国的な運転手不足等により、路線の廃止や減便が行われるなど運行に苦慮していることから、本市としても支援策について検討している状況。

○デマンド交通における現況の課題と市民からの御意見・御要望については、まず課題として午前 9 時から正午までの時間帯に予約が集中し、希望の時間に予約が取りにくい状況にあるため、本市と包括連携協定を結んでいる日本大学理工学部の協力により、利用時間の平準化に向けた調査・研究を開始したところ。

○市民からの御意見・御要望については、乗降ポイントの新設に関するものが最も多く、次いでドア・ツー・ドアに関する事などについて寄せられており、すでに乗降ポイントの新設やドア・ツー・ドアの対象者拡大など、実施に至ったものもあり、今後の展開として令和 6 年度中のオンライン予約への対応について検討を進めている。

○市外へのアクセスについては、鉄道駅のない本市では、路線バス、高速バス、タクシーなどが利用されている。また、デマンド交通は既存の公共交通の補完を目的として運行していることから、本市に隣接する市町の主要な駅に乗降ポイントを設置し、市民の皆様の行動範囲の拡大につなげ、問題の軽減にもつなげるとともに、利便性を考え、隣接する市町の主要施設である病院などにも乗降ポイントを設置している。

○多様な公共交通の調査研究として、市内横断的な組織として「富里市地域公共交通に関する研究会」の設置や、日吉台地区における住民を主体としたグリーンスローモビリティに関するアンケート調査や導入実現の可否など、新

たな公共交通の導入も含めた取組を行っている。今後も「ライドシェア」について注視するとともに、自動運転技術の導入やグリーンスローモビリティなど、多様な交通手段の調査・研究を進めていく。

■デマンド交通の考え方について

(1) 市外居住者の同行乗車について

○デマンド交通の利用者は、市民及び市外からの在学生としているが、例外として市民の方が1人で乗降できない場合に補助する介助人として市外の方の利用を認めている。介助人として乗車する場合も、市民の方が利用される場合の運賃体系に応じた金額を支払っていただいている。

○デマンド交通は、バスやタクシーなどの既存の公共交通を補完し、市民の日常生活における移動手段の確保を目的として運行していること、市外居住者の同行乗車を認めた場合、市民の方が希望する時間帯に予約を取りにくくなることなどの理由から、介助人以外の市外の方の利用は困難と捉えている。

■デマンド交通における今後の対応について

(1) 市民からの評価が高いデマンド交通は、今後利用者が増加し経費も増加していくことが予想されるが、今後の工夫は。

○デマンド交通は令和4年10月1日の運行開始から1年を経過し、令和5年9月30日現在で延べ38,094の方に御利用いただくなど、登録者・利用者の増加に伴い、運行経費も上昇している。

○運行経費の抑制策として、現在1便あたり料金で契約している運行委託料を、令和6年度から1日貸切り料金への変更を検討しており、運行事業者と協議中であり、変更後は利用数に左右されず委託料が定まることから、運行経費の削減につながると考えている。